

いつもは家で、大声出して、教科書の本文を何回も読み、好きな文章は暗唱して、時々、書く程度だった。

それでも、単語は文章で耳から、口から僕は覚えていたのだ。

生物は自習。

生物の時間は面白くない。目的がわからない。

もう少し、生命の神秘や、病気の治療や薬の話なら僕も興味ある。

生物の種や類の区分などは本に細かく書いてあり、それを辞書程度に参照すればいいように思った。要するに暗記は僕はいやだ。

自習の時間、窓の外を見て、ぼんやりしていた。

教室は、高い三階にあるので、京都盆地の建物がはるか八幡の山まで見える。

散髪するたんびに、お母ちゃんが顔を剃る。その為か、ひげがだいぶ濃くなってきた。皆が僕のひげを見て、ちやほや言う。

いつも同じ事を言っている